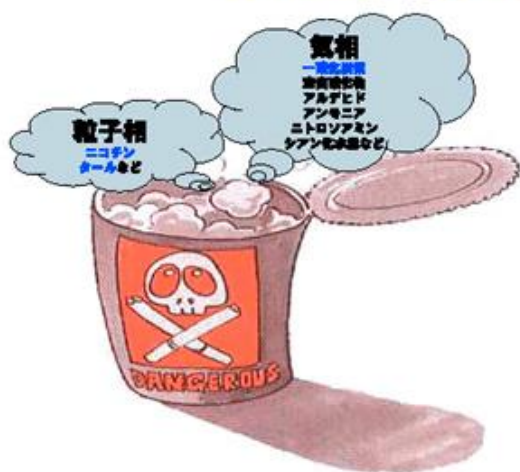


# 週刊 タバコの正体

タバコは毒物の缶詰のような商品です。前回は紹介したとおり、その煙には発ガン性物質がいくつも入っています。だからもし、タバコが下図のような形をしていたとしたら、いったい誰が買うのでしょうか。というよりもそれ以前に、そんなモノが商品として店頭で並ぶわけがありません。きっと製造も販売も禁止されるはずですからね。ところが、現実のタバコという商品は中身が毒物だらけなのに、スーパーやコンビニに堂々と並んでいるばかりか自動販売機でも売られています。これはいったいどういう事なのでしょうか。

今から500年前、コロンブスはその航海で新大陸を発見しただけではなく、タバコも同時にヨーロッパに持ち帰っていました。それがきっかけで世界中に広まったと言われてはいますが、その当時、タバコにこんな毒物が含まれている事は誰も知らなかったのです。そして、やっかいな事に主成分のニコチンには強力な依存性があるので、タバコをやめられないニコチン依存の人が世界中にあふれてしまいました。

## タバコは毒物の缶詰



◆タバコの煙の中には4000種類以上の化学物質が含まれる

◆そのうち200種類以上は有害物質である

© 厚生労働科学・中村延 2002

### タバコは毒物の缶詰

- タバコの煙の中には約4000種類の物質が含まれているが、そのうち200種類以上は有害物質である。
- 代表的な有害物質には、ニコチン、一酸化炭素、タールのほか、カドミウム、砒素、アンモニア、シアン化水素、さらにはダイオキシンなどがある。
- ニコチンには、依存性があるほか、血管収縮作用や胃酸の分泌促進作用があり、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などを引き起こす。
- タールには、約40種類の発がん物質が含まれており、肺がんをはじめ、多くのがんを引き起こす。
- 一酸化炭素は、血管内皮を傷害して動脈硬化を促進させ、心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こす。また、ヘモグロビンとの結合力は酸素の約250倍も高く、酸素の運搬を妨害するため、持久力や作業能率が低下する。

丸井健康保険組合HPから

世界中のニコチン依存の人々が毎日何本もタバコを吸い続けるわけですから、膨大な量のタバコが必要です。この需要にこたえるため、多くのタバコ会社が商品を量産し売り続けた結果、500年後の現代では「人体に有害なタバコの製造・販売を禁止する」と言えない状況になってしまったわけです。

しかし、人々の健康を無視してでも、タバコを売り続けた時代は、これから大人になる君たちの世代から少しずつ変わろうとしています。

産業デザイン科  
奥田 恭久